

2025 年 1 月 吉日

株式会社アイヴィス
先進技術研究開発統括部

JISA 技術委員会主催 技術コンテスト(第3回)において 先進技術研究開発統括部の参加チームが 総合優秀賞2位 に入賞しました

令和6年11月19日から12月4日の期間で開催された、一般社団法人 情報サービス産業協会(以下、JISA)技術委員会が主催する「JISA 技術コンテスト(第3回)」において、当社、先進技術研究開発統括部に所属するエンジニア4名がチームとして参加、総合優秀賞で第2位に入賞しました。

当コンテストは「レジリエンスと開発生産性の向上」というテーマに基づき、9つの技術テーマ(AI コーディング、カオスエンジニアリング、データ分析、アルゴリズム、アプリケーション、DevOps、セキュリティ、ミドルウェア、クラウド)から合計28の課題と、1種類のアピールシートで成果が評価されました。表彰内容として、2つの部門賞(データ分析 優秀賞、技術課題解決 優秀賞)と総合優秀賞が設けられ、当社は総合優秀賞の部門で第2位となりました。

コンテストの詳細につきましては、主催者のサイトをご覧ください。

「技術コンテスト第3回 開催報告」 (JISA ホームページ ニュース速報)

<https://www.jisa.or.jp/Portals/0/resource/news/1454/701.pdf>

当コンテストでチームを構成、総合優秀賞で2位に入賞した当社社員4名のコメントと、先進技術研究開発統括部 統括部長の講評をご紹介します。

<次ページに続く>

参加社員のコメント



月岡 大 (つきおか だい)

入社年度 : 2021 年度
所属部署 : ATRD サービス 4 部
最終学歴 : 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻

[コメント]

このたび、情報サービス産業協会(JISA)の技術コンテストに参加し、チームリーダーとして2位をいただきました。本コンテストでは GitHub Copilot を用いた効率的な開発の体験や、クラウド(AWS)の学習を通じて、短期間で多くの技術を吸収する機会となりました。特に、リーダーとしてのスケジュール管理やメンバーへのタスク割り当ての重要性を実感し、現場レベルでのリーダーシップを鍛える場としても大変有意義でした。未来のリーダー候補には、ぜひこうしたコンテストへの参加を推奨したいと考えています。今回の経験を糧に、自身の技術力とチーム力をさらに向上させていきます。



片岡 翔太 (かたおか しょうた)

入社年度 : 2021 年度
所属部署 : ATRD サービス 3 部
最終学歴 : 千葉工業大学 情報科学部 情報工学科卒業

[コメント]

今回のコンテストでは普段の業務で扱うことがない技術領域に多く触れることができ、非常に良い経験になりました。また、業務との関連も深い「AI コーディング」の課題を通じて GitHub Copilot を初めて利用したことで、AI の業務への適用可能性を直接感じることができました。この経験を社内へフィードバックし、業務への AI 活用を広めていきたいと考えています。コンテストの結果としてはメンバー各自の尽力により第2位を受賞させていただくことができましたが、同時にコンテストを通じて部署柄としてもクラウド基盤に弱いという課題が見えたので、今後は専門技術に限らずより幅広い分野の経験を積んでいきたいと思いをします。



岩元 佑樹 (いわもと ゆうき)

入社年度 : 2022 年度
所属部署 : ATRD 技術 1 部
最終学歴 : 京都大学大学院 理学研究科化学専攻 博士後期課程修了

[コメント]

今回のコンテストでは主にアルゴリズムとデータ分析を担当しました。アルゴリズムでは全問正解のチームが数チームのみと難易度が高い問題が出題されましたが、普段競技プログラミングに取り組んでいることもあり、全問正解してチームに貢献する事が出来ました。データ分析では与えられたテーブルデータから特徴量を抽出し機械学習に用いる必要がありましたが、普段の業務ではリザーバコンピューティングという機械学習手法を用いた時系列予測・時系列分類を主に取り扱っており、上記のテーブルデータを用いた機械学習に関しては経験が浅かったので非常に勉強になりました。今後も精進していきたいと思います。



齋藤 圭吾 (さいとう けいご)

入社年度 : 2022 年度
所属部署 : ATRD サービス 4 部
最終学歴 : 北海道大学 工学部 応用理工系学科 応用物理工学コース卒業

[コメント]

コンテストでは、主にクラウドとミドルウェアの問題を担当しました。クラウドの問題には、CloudFormation を用いたサービスの作成から始まり、ECS を活用してアプリケーションのインフラを構築する課題に挑戦しました。初めての技術領域でしたが、チームメンバーと協力しながら課題に取り組みました。他のチームが早々に問題を解く中、自分の理解度の低さに苦しさを感ずる場面もありましたが、解き切れなかったものの、あと一歩のところまでたどり着くことができました。特にクラウドの理解にはネットワークなどの基礎知識が必要なため、今後は体系的に学習を進め、実践的なスキルを磨いていきたいと考えています。

先進技術研究開発統括部 統括部長（所属部門責任者）講評

技術力を売りにする部門として、腕試しと内外へのアピールの機会と捉え、自主的な参加を呼びかけたところ、統括部内で4名の意欲的な応募がありました。普段の業務では専門技術を扱っているため、技術テーマの中には業務で扱う機会が少なく馴染みの薄い領域もありましたが、メンバーはその課題に対して自ら学習・キャッチアップしながら取り組むことで、期待以上の成果を出してくれました。

この取り組みを通じて得た手ごたえ・自信は、今後の業務や統括部全体の技術力向上にも貢献してくれるものと確信しています。積極的に挑戦の場を広げてくれたメンバーに心からの感謝と敬意を表します。

以 上